

じっくり心をこめて

スロー フード

162



らっきょうサラダ

特定健診受診者の方への結果説明会時に試食品として配付している料理です。みなさんに好評をいただいておりますので、今回紹介させていただきます。中身の食材は、ぜひご家庭でアレンジしてくださいね♪

《今日のご紹介》

関川村食生活改善推進員 の皆さん

材 料 (4人分)

- ・甘酢漬けらっきょう 20g ・ピーマン 2個
- ・きゅうり 1本 ・人参 60g
- ・塩 少々 ・さけるチーズ 1/2本

作り方

- ① ピーマンは半分に切り種を除いてせん切り、きゅうりは上下を切り落としてせん切り、人参は皮をむいてせん切りにする。人参は鍋に湯を沸かしさっとゆでるか、電子レンジで2～3分加熱する。
- ② ボウルに①の具材を入れて塩少々をふる。
- ③ さけるチーズは細かく裂き、半分の長さに切っておく。
- ④ らっきょうは薄切りにする。
- ⑤ ②のボウルに③のチーズと④のらっきょうを加えて混ぜる。しばらく置いて味が具材になじんだら器に盛る。

せきかわ文芸

短歌

雨蛙いかに飛びしかつり鉢の
小花咲く中にしずもりて

渡辺千恵子
(上関)

関山俳句の会作品

ようやくに梅干す日和来たりけり

伊藤 久恵

新茶淹れ友と会話のはずみけり

伊藤 久恵

孫論す茄子の花にも準えて

伊藤 久恵

花びらの重たそうなる花菖蒲

渡辺しづい

補聴器をまず外したる昼寝かな

渡辺しづい

あるだけの西瓜を叩き一つ買う

渡辺しづい

せきかわ山柳会作品「雑詠」

すり減った人生丸く小さくなる

平田 千恵

疲労感卒寿の坂に加速する

平田 千恵

九条を外すと軍歌流れ出す

平田 千恵



国際ボランティア学生協会
IVUSA 通信

◆災害救援を行いました

8月9日から12日に福岡県朝倉市の松末地区で、九州北部豪雨災害救援活動をさせていただきました。活動内容は主に被災された民家の土砂だし、床下の泥出し、家具出しです。

私たちは、「現地に元気を置いてくる」を目標にしています。学生の若いパワーを活かした活動を通して、少しでも前向きな気持ちになっただけのような活動になりました。



災害救援活動はIVUSAの原点です。しかし、活動が続けられるのは支援してくださる方々のおかげです。感謝の気持ちを忘れず

に、より一層学生らしく、全力で活動していきたいと思えます。



◆夏に行う活動紹介

IVUSAでは、長期休暇を利用して、関川村以外でも多くの活動を行っています!!

その一つとして紹介するのは…中国緑化活動です! 9月上旬に中国の学生と共に植林活動する予定です。



☆今月のせきかわっ☆



プロフィール

◎名 前:大西哲平

(龍谷大学2年)

◎出身地:京都府

◎参加したお祭り

大したもん蛇まつり

(2016・2017)

◎関川村にラブレター

初めて行かせてもらった活動で、本当に色々なことを学ばせていただいたのがこの関川村です。新たな仲間、暖かい村の方々、普段体験できない祭り運営など色々なものをここで得ることができました。だから、自分ができることを精一杯やって行きたいです! これからも自然豊かである豊かな意味で暖かい関川村が続きますように。

来月号は、大したもん蛇まつりでの活動の、あんなことや、こんなことをお伝えしちゃうよ!

投稿

ホタルについて(その2) 滝原 平田 時夫

大会資料で、私が特に興味深かったのは、平成28年度5月20日の中学生アンケート調査の結果です。関川村で一番のホタル生息地である集落でも、ホタルを見たことがないという回答が71%とのデータ。また、ホタルを増やすために自分たちの出来そうな手立てとして、8項目のうちの一つ「捕まえて人工的に繁殖させてホタルの卵を確保する」。さすが現代っ子らしい発想だと苦笑した次第です。しかし、終わりに「遺伝子汚染」と言う言葉で、「安易な気持ちで自然に手を加えることのないよう、もっとしっかり学習したい」と締められており、ホツとしました。

さて、前回ふれたホタルの研究学者原志免太郎著、「蛍」から一部抜粋して、面白いことを紹介しましょう。まず、ホタル文学から、「蛍雪の功」後龜山天皇の御製に

「あつめては国の光りとなりやせん。わが窓でらす夜半のホタルは」と読まれ、次に蛍の光「ホタルの光、窓の雪」。私小學校1年生の時から卒業式の時に合唱した覚えがあります。懐かしい昔のこと思い出して、唄って見たが続かない。痴呆気の私、一晩中考えたが暫くして歌えつくことが出来ました。もしも間違っていましたらごめん。

蛍の光窓の雪 ふみよむ月日重ねつつ いつしか年もすぎのとう 明けてどけきは別れゆく

永年睦しく親しんだ師とも、学びの友とも別れ悲しい心境が思い出されて仕方ありませんでした。勉学と言うことと離れない関係があるように思います。

また、ひとつ、私幼き頃、初夏の夜一番楽しかった夜遊びホタル狩りで呼んだうた。

ほ、ほ、ホタル来い
あつちの水はにがいぞ
こつちの水は甘いぞ
ほ、ほ、ホタル来い。

その昔は、滝原集落にはたくさんホタルが生息し飛遊しました。ウチワで捕まえたホタルを牛乳瓶に入れ、逃げないように草で栓をし、夜9時頃まで夜遊びにふけ、家に帰り蚊帳の上に置きホタルの光を寝転んで夜な夜な楽しんだものです。

現代は、テレビやスマホと情報化時代。現代っ子には理解できない貴重な子どもたちの娯楽だったのです。蛍の呼びかけにこつちの水は甘いぞ。蛍は砂糖水が好きなのでしょうか? ホタルの餌とは巻貝のカワニナ。

蟻に嫌われた蛍
蟻は砂糖をこぼすとすぐさま真っ黒に寄ってきて砂糖を嘗めるが、蛍学者はこの実験はなされていません。なぜだったのか分らないけど? おもしろい話し。蟻はどんな虫の死骸でも自分の巣に引っ張り込むが、決して蛍を引いて行かない。これは新しい発見だと言う。